

4. 2. Bクラス

I. 担当実習生

河口、越賀の2名が担当した。基本的に一コマの授業は一人の実習生が授業を行い、残りのメンバーが補佐としてビデオ撮影、記録を請け負った。

II. クラス目標

AETとして日本で生活する上で最低限困らない程度の日本語を身につける。

日本での生活を始める前段階として役立つ情報・知識を得る。

III. 学習者

学習者	国籍	性別	学習歴	滞日期間	参加日
A	アメリカ	男	1年	6年	全日
B	アメリカ	男	なし	1年	全日
C	カナダ	女	8ヶ月	1年	13日（遠足）のみ欠席
D	カナダ	女	なし	1年2ヶ月	全日
E	イギリス	男	9ヶ月	なし	全日
F	ニュージーランド	男	6ヶ月	2ヶ月	13日（遠足）のみ欠席
G	アイルランド	男	1年3ヶ月	なし	全日

IV. 学習者のニーズ・レディネス

（コース開始前）

プレースメントテストからニーズを、事前アンケートからレディネスの把握を試みた。

ニーズ：

教室での使用文字は全員ひらがなを希望していた。授業で焦点をあててほしい内容では、5名が会話、2名が文法と希望していた。文法を希望していた2名は滞在が長く、日本語を体系的に勉強したいという思いが強かったと推測される。

レディネス：

学習者 D は学校機関で日本語を学習したことがなかったが、他の学習者よりも日本滞りが長かった。そのため、プレースメントテストの結果も含め、他の学習者と同等の日本語レベルであると判断した。他の学習者は主に大学で日本語を学習していた。全員ひらがなは読めたが、2名はひらがなが書けないと事前アンケートで答えていた。

(コース開始後)

コース開始前は、毎日の授業後アンケートからニーズを再度把握しその後の授業に取り入れる等して授業内容、レベルを調整する予定であったが、アンケートによる授業評価では学習者からの不満が見られなかったため、特に授業計画の修正は行わなかった。

V. シラバス

機能シラバスと場面シラバスの折衷シラバスを採用した。

月日	1 限目	2 限目、3 限目
8月10日(水)	オリエンテーション あいさつ表現	L1 自己紹介 表現練習、名刺交換・お辞儀を含む実践
8月11日(木)	L2 注文する (1) こそあ、～の	表現練習、レストランでのロールプレイ
8月12日(金)	L3 道を尋ねる います、あります	表現練習、場所を尋ねる教室外活動
8月17日(月)	L4 買い物する い形容詞	表現練習、買い物のロールプレイ
8月18日(火)	L5 誘う 動詞、い形容詞	～たことがあります、～たいです 表現練習
8月19日(水)	復習 な形容詞	復習、すごろく パーティー

VI. テキスト編纂

テキストやハンドアウトを作成するにあたって、以下のような文献を参考にした。

- ・昨年度実習で作成された A、B クラスの教科書
- ・『みんなの日本語 初級 I』スリーエーネットワーク
- ・『日本語入門 はじめのいっぽ』スリーエーネットワーク
- ・『Japanese for everyone』学習研究社
- ・『楽しく話そう 文化初級日本語会話教材』凡人社
- ・『日本まるごと事典』講談社

VII. クラス内容

2005年8月10日	1限目	担当：河口
学習事項		
あいさつ表現		
授業の流れ		
<p>コースについて説明する。</p> <p>あいさつことばを確認する。</p>		
反省		
<p>あいさつことばの確認は難しいレベルのものではなかったが、予想していたよりも書くのに時間がかかり、負担が大きい活動になってしまった。もっと簡単に（口頭で）すませてもよかったと思う。初めに授業の雰囲気を作るのが難しかった。教師も学習者も緊張していたと思う。</p>		

2005年8月10日	2、3限目	担当：越賀
学習事項		
名詞文、数字		
授業の流れ		
<p>ダイアログを聞いて内容の理解確認をする。</p> <p>インタビューシートを用いて相手の「好き嫌い」を聞く会話練習をする。</p> <p>カレンダーを提示して数字を導入する。</p> <p>自己紹介のビデオを見る。</p> <p>席を立ってお辞儀の練習(ペアで)をする。</p> <p>日本人のジェスチャー、しぐさを紹介する。</p>		
反省		
<p>授業に取り入れる項目は単発であるが、相互につながりがなく、量的にも取り入れすぎた。また、一つ一つの活動にかける準備が不足していた。学習者によって文字が読める人、読めない人がおり、タスクを行う際もっと考慮が必要だった。初日だったので、学習者個人の性格や、習得している能力、文法項目を大まかに推測することができ、翌日の授業作りに役立てることができた。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：越賀
学習事項		
これ、それ、あれ、どれですか 所有、修飾の「の」、助数詞		
授業の流れ		
<p>新単語チェックをする。</p> <p>「これ(それ、あれ)は～です」の形を導入する。</p> <p>修飾、所有の「の」導入後、ゲームで理解を深める。</p> <p>ダイアログを聞いて、内容の理解確認をする。</p> <p>助数詞の導入をする。</p> <p>数字ビンゴ。Sの私物や絵を指し、当たった数字と組み合わせ助数詞を用いて言わせる。</p>		
反省		
<p>前日に導入した単語や表現を学習者が積極的に使用しており、質問もよく出された。習った語や表現を使おうとする意欲が見られ、短時間で導入した項目でも吸収してもらえることが分かった。ただ、個人差が大きいので、あまり理解できていない学習者と復習感覚で受け止めている学習者とが混在していることが気になった。が、そのままにしてしまった。</p>		

2005年8月11日	2、3限目	担当：河口
学習事項		
これ・それ・あれ、注文する時に必要な語		
授業の流れ		
<p>ビデオを見る。</p> <p>教科書のダイアログを聞いて内容を理解する。</p> <p>ペアでインフォメーションギャップのある会話練習をする。</p> <p>居酒屋での注文場面という設定でロールプレイを行う。</p>		
反省		
<p>ペアでの会話練習の時に使ったタスクシートについての説明が足りず、活動に入るまでに時間がかかった。学習者の態度が消極的で、口頭ドリルの参加の様子もあまりよくなかった。話せる雰囲気を作れるよう心がける必要があった。現実に近いコミュニケーション場面で練習した時は学習者の参加が積極的だった。</p>		

2005年8月12日	1限目	担当：河口
学習事項		
存在文、場所・位置詞の名称、ここ・そこ・あそこ		
授業の流れ		
存在文を導入する。 位置詞を実際に体を動かしながら確認する。 練習問題を通して理解を深める。		
反省		
タスクで2グループに分けたが、1グループしか活動ができなかった。グループ間にかかる負担が違ってしまった。位置詞の確認をもっと丁寧にすべきだった。活動は盛り上がったが、活動の様子と学習者の理解とは別である。		

2005年8月12日	2、3限目	担当：越賀
学習事項		
存在文、来ます、行きます 聞き返しの仕方、となりに、～と～のあいだに		
授業の流れ		
「行きます、来ます」、存在文の復習をする。 「となりに」、「～と～のあいだに」の応用練習をする。 タスク①：本屋、スーパー等の位置を地図を見ながら答える。 ダイアログを聞いて内容の理解確認をする。 3択クイズ(聞き返しの仕方)を行う。 タスク②：2グループに別れ指令カードに従い目的地に行く。到着したら証拠写真を撮る。		
反省		
授業の前半に動きを取り入れた活動を行ったことがクラスの雰囲気を変えたかもしれない。前日までとは違い、大きい声や笑いが出ており生き生きしていた。 位置や場所の名詞(例えば、「みぎ」、「ひだり」)は導入の仕方と、地図の書き方が悪く、最後まで学習者を混乱させてしまった。見る人の顔の向きを地図上に書いておけばよかった。 最後のタスクで教室外に出ると、教室内ではあまり話さない学習者が積極的に発言した。 図書館の受付で率先して目的物の場所を聞き、タスクを成功させた。違う環境の中で行う活動は必要だ。		

2005年8月17日	1限目	担当：越賀
学習事項		
動詞文、い形容詞文、い形容詞+N 名詞の「の(=もの)」、～より		
授業の流れ		
<p>新単語チェックをする。</p> <p>動詞文を聞いてジェスチャーをする(時計を見ます、そばを食べます、お酒を飲みます・・・)。</p> <p>形容詞を導入する。</p> <p>「い形容詞+N」を導入後、理解確認を口頭で行う。</p> <p>「い形容詞、N+の」を導入後、理解確認を口頭で行う。</p> <p>「AはBより～です」の文を導入後、プリントで理解を深める。</p>		
反省		
<p>動きを取り入れるジェスチャーの時間はやはり盛り上がった。もう少し長くやれるように例文を多く用意しておくべきだった。</p> <p>一つの活動から次の活動に移るときのタイミングがうまくいかず、学習者を待たせてしまった。また、1時間に多くの項目を詰め込んだので、理解できない学習者がいた。その場合の対処の仕方、確認問題の準備までしておくべきだが、その余裕がなかった。学習者の理解を少しでも助けるために、ドリル練習とコミュニケーション練習を入れる場所や順番を、もっと考える必要があった。</p>		

2005年8月17日	2、3限目	担当：河口
学習事項		
形容詞、比較文		
授業の流れ		
<p>形容詞、比較文を使ってペアで会話をする。</p> <p>会話文を読む。</p> <p>買い物場面でロールプレイを行う。</p>		
反省		
<p>活動指示がはっきりしていないことが多く、活動に締まりがなかった。ある学習者に文字表記がないと記憶にとどまらないので板書をもっと増やして欲しいと言われた。会話中心の授業という意識から、話すことと聞くことに意識が向きすぎていたと反省。</p>		

2005年8月18日	1限目	担当：河口
学習事項		
～ませんか、～ましょう		
授業の流れ		
～ませんか、～ましょうを導入する。 口頭ドリルを行う。 ペアで会話練習をする。		
反省		
タスクの入りがうまくいかなかった。指示、説明が一部の学習者に伝わらない。もう少しゆっくりと丁寧に学習者の顔を見ながら進めていく必要がある。ダイアログは全体で読みの練習をしてからペアに移ればよかった。全体的に丁寧さが欠けていた。		

2005年8月18日	2、3限目	担当：越賀
学習事項		
動詞の普通体、～たことがあります、～たいです、日英の「行きます、来ます」		
授業の流れ		
普通体、過去の普通体の変換練習をする。 「～たことがあります」を導入後、プリントで応用練習をする。 「～たいです」導入後、プリントで応用練習をする。 3択クイズ(日英の「行きます、来ます」)を行う。 2つのダイアログを聞いて内容の理解確認をする。		
反省		
個人ではなくペアワークやグループワークをさせると活発に話してくれるようだ。 文字が定着していない学習者はいるが、板書を多くすると以前よりも理解がスムーズになる学習者もいた。文字が苦手な学習者に対するケアをしながら授業を作らなくてはならない。タスクや発表の後の「締めくくり」があいまいで、だらだらと活動が終わってしまう。		

2005年8月19日	1限目	担当：越賀
学習事項		
な形容詞、助詞「ね」と「よ」、学校行事紹介		
授業の流れ		
<p>な形容詞の各活用形を導入後、形の練習をする。 「な形容詞+N」を導入する。 ダイアログで「ね」と「よ」の違いを説明する。 学校行事の紹介をする。</p>		
反省		
<p>板書に注目している学習者が多いことが分かった。 学校行事の紹介は、本当に紹介で終わってしまった。他のやり方も考える必要があると思うが、学習者としては単なる知識でも貴重な情報だったようだ。取り上げてよかった。</p>		

2005年8月19日	2限目	担当：河口
学習事項		
コースで習ったことば、文型の復習をする。		
授業の流れ		
<p>すごろくゲーム（「どんな音楽が好きですか」等質問文を書いた紙を伏せた状態で並べ、さいころを振り自分のコマがとまった紙に書いてある質問に答えるという内容）を行った。 始めに全体にルールを説明し、その後学習者にも質問文を紙に書いてもらった。次に2グループに分かれ、それぞれ既習の項目を使いながら会話をした。</p>		
反省		
<p>目標はコースで勉強した学習項目の復習であったが、全ての項目に触れることができなかった。書かれていた質問に偏りがあったため、物足りなさを感じる学習者もいたようだ。だが、学習者間にレベル差があったため、互いに協力しながら楽しく進められた。</p>		

VIII. アンケート

Bクラスは授業後にA4一枚分のアンケートを毎日実施した。授業で扱った内容がどの程度学習者のニーズに合い、どう受け止められているかを知ることと、「日本文化・日本事情」の項目について尋ねることが目的である。以下に具体的な質問項目を提示する。アンケート後半の「日本文化・日本事情」の箇所はその日扱った内容に合わせて多少変化させた。

【資料：Bクラス授業後アンケートの提示例(1日目)】

自国との比較や日本についての感想を得ることができ、結果的に学習者に母語で考えさせることができたと思う。その意味で授業後アンケートは有意義であった。

IX. 全体の反省

準備不足で学習者と休憩時間などにゆっくり話すことができなかった。学習者は全体的に授業中の発言が少なかったので、授業外でも話す余裕があれば、彼らの性格や別の面が見られ、良かったのではないかと思う。

1人1人の学習者のレベルや性格に合わせようとしすぎた。もう少し、教師がクラスをひっぱっていく姿勢を見せてもよかった。Bクラスは最後まで学習者のレベル分けが定まらず、幅のあるクラスになった。その分、教師側が方針をはっきりと提示し引っ張っていくという方法を採用すると良かったのかもしれない。

授業中の活動項目が細かく、次の活動へのつながりが悪かったが、Bクラスの学習者にとっては、短いコラムやクイズのような活動が好まれていたようだ。これらの活動を取り入れる順序を考える必要があった。

授業で使った道具（ぬいぐるみなど）がクラスにいい影響を与えたように思う。学習項目の導入などの学習面はもとより、キャラクターとしてクラスに定着したものもあり、クラスでの笑いをよく引き出していた

細かい反省点は数えれば限らないが、コース全体を満足度の観点から総合的に考えれば、学習活動内容、レベル、クラス環境作りなど成功した点が多かったといえるのではないかと思う。クラス全体や学習者個人のことを知るにしたがって、教師にとっては居心地のよいクラスになっていったし、学習者側も授業後アンケートから授業内容に関して高い評価を示していた。ただ、何を学習したかという学習面においては確認さえ十分することができず、クラス目標を達成できたかどうかは疑問が残る。

<河口・越賀>